

## 結核の研究者 (その1)

『風立ちぬ』では(堀辰雄の小説にしろ宮崎アニメにしろ)、菜穂子というヒロインは結核という設定である。結核は結核菌による伝染病である。遺伝的体質により感染しやすいということもあって、かつては日本の国民病ともいわれ、戦後しばらくまでは日本人の死因の一位を占めていた。しかも、それが美人薄命、天才夭折の物語と結びつく。そのなぞに、当時の人の意識や歴史的背景という面から迫った学者が、名古屋大学大学院国際言語文化研究科長の福田眞人先生である。

\*

## ―京都大学では工学部で学んだそうですね。

大学に進む時、将来は大学で工学の教師でもして研究をしながら趣味に生きるという、とんでもない人生設計を立てていたのです(笑)。ところが、大学での勉強が面白くなり大学院へ進み、博士課程まで行こうと考えていたところ先生に反対されました。就職先まで紹介してくれたのですが、それをお断りしたので京大に残るのもどうかと考え、文転しますとお応えして東京に出て、一度は出版社に就職したものの、三年ほど働いて東大の大学院に入学しました。

## ―病気に関する興味はいつからですか。

遡りますと中学一年生の時に、ハンザ同盟に興味を持ち、それを調べてみると、その周辺で常に病気のことが話題になっていました。その後、高校2年の世界史の教科書に、1348年のペストの大流行でヨーロッパが変わったと書かれた二行ほどの文章を読んだ瞬間、これは興味深いと思い、病気が人間の歴史にどういう影響を与えたかを追いかけてみ

たくなりました。

歴史の教科書には戦争や政治のことがたくさん載っていますが、病気が社会に及ぼした影響については書かれていません。しかし明治から現代に至るまで、戦争で亡くなった人が310万人であるのに対して、結核で亡くなった人は1000万人を越えています。

個人生活、社会生活、経済生活に与えた大きな影響を考えると、なぜ結核を無視した歴史を書いているのか疑問を持ちました。

## ―ペストに興味を持ちながら、結核を研究テーマとしたのはなぜですか。

東大大学院の入学試験が転機です。私はペ ストをやるつもりで面接試験に臨んだとこ ろ、「君は何カ国語ができるの?」と聞かれ、 「英語、ドイツ語、フランス語くらい」と答 えましたら、「ギリシャ語、ラテン語、イタ リア語、スペイン語もできるようになったら (ペストを)やってもいい」と言われまして、 それは難しいですと言ったら、先生も「そう 思うだろ。でも面白いテーマだから、時代を 近世に持ってきたらどうだろう、コレラとか 天然痘とか」と言われ、その時うっかり、で は結核でもやりますかと答えてしまったので す。研究テーマを変えるなら入学を認めると 解釈したもので、入りたい一心だったのです (笑)。ところが、取り組んでみたらこれが 面白く、今も興味がつきません。

\*

自分の人生をかけるテーマと人はどのようにして出会うのか? なかなか面白いテーマである。 (次号に続く)

(出典:学士会会報「U7」2013年11月)